

# 令和6年度 全国学力・学習状況調査 結果分析 光明中学校

【調査日】 令和6年4月18日（木）

【調査対象】 中学校第3学年

## 【調査内容】

### 【1】教科に関する調査（国語、数学）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

### 【2】生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ① 生徒に対する調査  
(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査)
- ② 学校に対する調査  
(指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査)

## 【問題別調査結果】〈各教科に関する調査の結果 概要〉

(概要) 本校の平均正答率は、国語において全国 58.1%、奈良県 56%、本校 54%であった。数学においては全国 52.5%、奈良県 52%、本校 58%であった。

## 【生徒質問紙調査結果】

- 基本的な生活習慣の質問に対して、朝食 93.8%、就寝時刻 78.1%、起床時刻 90.3%の生徒において生活リズムが確立できている。
- 「自分にはよいところがあると思うか」の質問に対して、肯定的な回答の割合は、81.6%（県 80.7%）で、自己肯定感のある生徒の割合は比較的多い。
- 「将来の夢や目標をもっている」と答えた生徒は 65.8%で、県平均 63.1%と同様である。学校として、キャリア教育の取組は進めているが、今後も充実を図っていく必要がある。
- 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した生徒は 96.5%である。これについては、限りなく 100%を目指していかなくてはならない。あらゆる教育活動において、いじめを許さない、誰もが楽しいと思える学校づくりを行っていく必要がある。
- 「人の役に立つ人間になりたい」と考える生徒が 93%いる。家庭教育と共に、道徳教育の推進の成果と考えられる。

○「学校に行くのは楽しいと思うか」という質問に対して、81.5%の生徒が楽しいと答えている。「友達関係に満足しているか」という質問に対して、85.9%の生徒が満足と答えている。

○「放課後や週末に何をして過ごすことが多いか」という質問に対して、部活動と答えた生徒が77.2%いて、熱心に活動している。ただ、家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている生徒が91.2%いる(複数回答)。

○「1, 2年生の時に受けた授業で、PC・タブレット等のICT機器をどの程度使用したか」という質問に対して、ほぼ毎日が5.3%、週3回以上が5.3%、週1回以上が39.5%となっており、かなり使用の頻度が低い。本校の課題であるが、タブレット端末の使用の頻度を増やすための職員研修が必要である。

○「学習の中でPC・タブレット等のICT機器を使うのは自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」と答えた生徒が62.3%であった。県平均では75.6%あり、生徒が前向きに活用しているといえる。各教科の授業での使用方法に工夫が必要である。

○「1, 2年生の時に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」生徒は、本校で56.1%であり、県では60.3%であった。

また、同様に「課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組んでいた」生徒は、本校で61.4%であり、県平均の73%を下回っている。

○「各教科の授業で学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つか」という質問に対して、国語は90.3% (県89.1%)、数学が70.2% (県74.5%) の肯定的な回答が得られた。

また、「各教科の学習が大切だと思うか」という質問に対して、国語は91.2% (県93.4%)、数学が84.2% (県平均85%) の肯定的な回答が得られた。教科による差もあるが、日々の生活や将来と関連付けた授業づくりが求められる。

### 【調査結果全般について】

今回の結果分析において、過去の項目を参考にし、昨年までの調査結果と比較できるように継続した報告を考慮している。

さて、昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症になり、学校生活における制限や制約が少しずつ解除されるとともに、改めて教育課程や学校行事の精選が課題となっている。また、第3次生駒市教育大綱が作成され、教育の変化や授業の改革に取り組む必要性が生じている。

本校は、部活動が熱心であり、学校行事に対する取組がたいへん意欲的である。また、先進的なキャリア教育を実践しており、地域や保護者からの協力や支援にも恵まれている。その中で、調査結果に表れているような生徒の自己肯定感や自己有用感が高いと思われる。ただ、課題としては各教科の授業におけるパソコン端末の使用率が極めて低く、対策が急務である。